

## 第一支部

### 第一支部報告

#### ア. 第1回勉強会

(ア) 日 時：平成 27 年 6 月 24 日 (水) 19:00～

(イ) 場 所：JCHO さいたまメディカルセンター 3階会議室

(ウ) 参加費：500 円

(エ) 内容：

#### a. メーカー最新技術講演

(a) 『富士フィルム FPD 最新動向について』

富士フィルムメディカル株式会社 浅野 省二

(b) 『ワイヤレス型 FPD を用いた最新製品のご紹介』

コニカミノルタヘルスケア株式会社 北関東支社 販売推進部

デジタルシステム担当 沼崎 明

(c) 『超低線量 X 線診断装置 sterEOS イメージングシステムの臨床的有用性』

(株) メディテックファーマーイースト

EOS Imaging 社 営業技術部 アントアン ムニエ

#### b. 教育講演

(a) 『診療放射線技師法改正・業務拡大に伴う統一講習会実施について』

日本診療放射線技師会 常務理事 富田 博信

### 第一支部情報

#### 今後の予定

#### ア. 浦和区健康まつり

(ア) 日時：平成 27 年 11 月 1 日 (日) 10:00～15:00

(イ) 会場：浦和コミュニティセンター

(ウ) 内容：医療放射線展  
骨密度測定

## 第二支部

### 第二支部 掲示板

所沢ハートセンター 柴 俊幸

平成 27 年度の第 1、2 回勉強会が行われました。今年度より会場の変更もあったものの双方とも 50 名前後のご参加をいただき盛会とすることができ、ご協力いただいた皆さまにはこの場を借りて厚くお礼申し上げます。今年度より体制も変わり委員の人数は減ってしまったものの、積極的に業務を手伝っていただいております。円滑に進めることができ、役員の皆さまに感謝感謝です。

さて、第二支部では今年度、定期勉強会の他に第 3 回目を数える循環器 CT セミナーを始めさまざまな勉強会を予定しており、他の支部との合同勉強会も複数予定しております。所沢は交通の便が良くないながらも、幸いなことにたくさんの方との出会いに恵まれこのようにコラボレーションできることを嬉しく思います。経験豊富な先輩方とお話することで教科書よりも有意義なことを学ぶことができたり、仕事への考え方や人生設計についても勉強させて頂いたり、若手の方とお話することで新鮮な気持ちを取り戻したり、そしてたまに説教くさくなる自分に気付いたり…。もちろん、同年代の技師さんと話すことでモチベーションも上がります。

まだまだ今年度もさまざまなイベントがありますが、皆さまとの出会いに感謝しながら自分自身を高め、第二支部、そして埼玉県診療放射線技師会が盛り上がっていくように邁進していこうと思っておりますので、皆さまよりご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、某選挙が始まる…。

平成 27 年 6 月 6 日

## SART・TART 合同勉強会 第二支部第5回勉強会特別講演座長集約

埼玉県済生会川口総合病院  
土田 拓治

「肩関節撮影法～撮影方法のコツを得る～」として春日部市立病院の工藤年男氏より講演頂いた。

最近の放射線画像診断の中心はCT・MRI・USであり、そのエビデンスは周知のとおりであり、診療放射線技師の研究テーマも盛んに行われている。それと比較して、一般撮影検査の研究を志す者が減少している印象を受ける。その要因として、診療放射線技師の教育体制や環境によると考える。よって、工藤講師による本講演は一般撮影技術が、他モダリティーと同等、それ以上の魅力がある事を再認識するきっかけとなった。

一般撮影検査は、大概の施設において基本的業務である。ただし、各施設によって最適な撮影法が存在し、職場の先輩など教育者の質に依存する。次に、臨床経験の必要性である。得られた知識を被写体ごとに応用出来るからである。そして画像再現性を得るために、その撮影法が適切かどうかの検証・研究をできる環境の構築であり、職場の同僚や研究会などを通じてディスカッションすることが大切である。特にメルクマールによる撮影技術の構築は再現性を得るためのコツ、つまり撮影が上手くなるコツとして、体表面の基準線・基準面の把握、機能解剖学に基づいたROM (range of motion) の関節可動域、良肢位(関節が固定された場合、日常生活にもっとも支障が少ない肢位のこと)を理解する事が必要と述べられた。

今回は、肩関節撮影を中心とした内容であった。撮影を行う上で参考とする著書の中には活字で理解が困難なものもあるが、良肢位を取り入れ、撮影法の臨床的意義を考えた撮影法について、3D-CTを用いてメルクマールとの関係を教示して頂いた事で、より理解が深まった。

最後に、一般撮影領域における環境変化は、アナログからデジタルに移行され、観察媒体もフィルム・シャウカステンからモニターへ急速に進んでいる。これは画像情報が膨大となった現在への恩恵は計り知れないが、それらを扱う診療放射線技師の撮影線量と画質(特に画像濃度・輝度)への意識がlooseになっているのも事実である。しかし、一般撮影技術にとって特に大切なのは、再現性と必要な診断情報を描出することであり、その原点はポジショニングであると考え。諸先輩方が培った撮影技術を論理的に理解し、継承していく事は、再撮影をしない撮影法の研究を盛り上げ、医療被ばく低減につながる。

## 平成 26 年度第 6 回勉強会座長集約

埼玉県済生会川口総合病院  
城處 洋輔

冒頭の製品紹介ではシーメンス・ジャパン（株）より PET / MRI について話題提供があり、リリース当時では PET/CT よりも SUV 値が低く算出されるなどの問題点も指摘されていたが、近年では Ultrashort TE 法を用いることで改善してきているということであった。MRI による動き補正の情報を PET 収集や再構成に適用させることで同時収集のメリットは挙げられるが、価格を含めて総合的に考えると現状では PET/CT を凌駕するとは思えず、導入施設も限られているため、ソフト面も含めた開発が進み広く普及することを期待したい。

一般演題では頭部領域の MRI について済生会川口総合病院の丸氏よりご講演頂き、救急領域における MRI の役割を明確に示し、撮像シーケンスを含めた注意点や臨床症例における特徴的な所見からの読影法もあり、非常に分かり易い内容であった。MRI 初心者にありがちな落とし穴としては超急性期脳梗塞の DWI について挙げられ、発症直後では拡散異常を来さないため異常信号領域の描出が難しいこともある。超急性期脳梗塞が疑われた際には DWI で異常信号が確認されなくても必ず MRA における血管の途絶が無い、又は FLAIR による intra-arterial signal (flow-void の消失と血液の T1 短縮により閉塞血管が高信号に描出される) を注意深く探すことの重要性を再確認できた。さらに DWI における脳梗塞の検出には適切なウィンドウ設定も必要であり、ASIST-Japan から提唱されている  $b = 0$  画像の視床部分に関心領域を設置する手法も紹介され、標準化のために有効な手法だと思われる。

頭頸部領域の CT については埼玉石心会病院さやま総合クリニックの山田氏より 3D-CTA についてポジショニングの工夫や造影・撮影条件、画像処理まで含めた施設内の運用を紹介された。特に頭部では低管電圧を採用しており基礎実験を交え、エビデンスに基づいたプロトコルが構築されていた。画像処理についてはサブトラクションによる血管抽出が用いられ、頭蓋底部に存在する血管や動脈瘤の描出が向上するなどの利点が挙げられるが、会場からは軌道同期（各スキャンにおける投影開始位置の同期）の有無によるミスレジストレーションの対応について質問があり、軌道同期による撮影ができない装置においては各スキャン間隔を調節することで投影開始位置が近づき、ミスレジストレーションの低減が示唆される。造影条件については造影剤注入速度・注入量固定法を採用しているため再現性に乏しく今後の検討課題とされていたが、単位時間・体重当たりのヨード量 (mgI/kg/sec) を固定する手法をとることで再現性が向上し、安定した造影効果が得られることが期待される。施設内でプロトコルが再構築されたらまた報告して頂きたい。

本セッションでは頭頸部に絞り基礎的な内容を中心に構成され、MRI および CT 検査に配属されて間も無い技師にとって直ぐに役立つ内容であり、日常業務の糧になれば幸いである。最後に、第二支部の勉強会に参加する機会を与えて頂いた役員の皆さまに感謝し、座長集約とさせていただきます。

## 「頸部～頭部 MRA, MRI の偽病変、アーチファクト」座長集約

埼玉県済生会川口総合病院  
浜野 洋平

特別講演の講師として埼玉医科大学国際医療センター画像診断科の内野先生をお招きした。内野先生には「頸部～頭部 MRA, MRI の偽病変、アーチファクト」と題して、アーチファクトの発生原理、回避方法、読影時の注意点など、基礎的な内容から臨床に役立つポイントまで分かり易くご講演していただいた。

頭頸部 MRA の偽狭窄の原因として空気による磁化率アーチファクト、血液の乱流がある。磁化率アーチファクトおよび乱流の影響を最小限に抑えるためには、最短の TE を選択すればよい。しかし、デメリットとして脂肪信号の上昇、末梢血管の描出能低下が生じるので、ルーチンシーケンスには不向きである。ルーチンシーケンスの MRA と最短 TE の MRA の両者を撮像し偽病変を把握することが大切とのことであった。

3D-TOF 法の特徴として血流測度が遅い場合、描出不良となることがある。結果的に高度狭窄病変が閉塞病変に、血液の流入が少ない動脈瘤は描出されないということになる。その際は造影 MRA を撮像すればよいが、造影剤の注入部位、撮像範囲を考える必要がある。

背臥位での左腕頭静脈および左内頸静脈は血流の停滞・逆流を生じやすく、アーチファクトの原因となりやすい。造影剤の注入は右上肢からすべきである。また頭頸部造影 MRA は冠状断での撮像となるため、目的とする血管が撮像範囲外になってしまうことがある。目的とする部位が撮像範囲に必ずはいるように注意してプランニングする必要がある。

酸素を吸入しながら FLAIR 像を撮像した場合、脳溝や脳槽の髄液信号が上昇し、あたかもくも膜下出血のような画像が得られる場合がある。担当技師は誤診を防ぐため、読影医に酸素を吸入しながら撮像したという旨を伝える必要がある。

Ghosting Artifact は血流の拍動の影響で生じ、FLAIR 像、造影 T1 強調像で位相エンコード方向に現れる。アーチファクトが偽病変として診断されないように適宜エンコード方向を変えて追加撮像することも大切である。

MRI 画像にはさまざまなアーチファクトが発生することは診療放射線技師・放射線診断医には常識であっても臨床科医にとってはそうでないこともある。内野先生もアーチファクトが病変として診断され、本来必要でない検査に出会ってしまう機会があるという。我々、診療放射線技師がアーチファクトを理解し、アーチファクトを除去、補正、軽減させることは臨床的に大変重要なことである。今回の講演で学んだことを日々の MRI 業務に生かしていただければ幸いである。

## 平成 27 年度第二支部第 1 回勉強会一般研究発表座長集約

さいたま市立病院 中央放射線科  
佐藤 吉海

演題名「脊椎領域における STIR 法の撮像条件検討 ～当院での至適条件検討～」を一般演題として大宮中央総合病院の川久保彰人氏に発表していただいた。

近年、MRI 撮像方法の一つとして、STIR (short TI Inversion Recovery) 法が頻繁に使用されている。この手法は、主に、人体の脂肪信号を抑制して、その周辺組織 (水成分) を診やすくすることを目的としている。ただし、撮像パラメータである TE・TR・TI などの変化によって、描出される画像はコントラストが異なってくるので注意が必要である。

今回、川久保氏は、それらのパラメータを変化させた時の画像コントラストの違いについて検討した。対象は、正常ボランティアで、部位は頸髄であった。実際にパラメータを変化させた場合のコントラストの異なる画像を見せていただいた。脊髄、椎体、筋肉の CNR の定量解析も行っており、さらに、いくつかのコントラストの異なる画像から、放射線科医、脳神経外科医、整形外科医の先生方に最適と思われる画像を選定してもらい、総合的にどの画像が適切かを結論付けた。

以上が検討内容であったが、診療部、診断部では、リクエストする画像情報が異なることがあり、放射線科以外の先生方と検討画像を議論したことは非常に臨床的意義が大きいと考えられた。医療安全という面からでも、放射線科以外の部署との情報共有が極めて大切とされており、他科のカンファレンスに出席し、臨床情報を議論するなど、チーム医療が重要視されている。今回の川久保氏の検討では、これらの要素が十分に含まれており妥当性のある結果だと考えられた。

また発表後に正常ボランティア数についての質問があった。確かに、脊髄、椎体、筋肉の CNR 測定値を考えた場合、体格によって測定値にバラツキがある可能性も否定できないので、次のステップとして、今後ボランティア数を増やし測定値の変動について調べることも大切であると考えさせられた。

## 平成 27 年度第二支部第 1 回勉強会一般研究発表座長集約

所沢ハートセンター  
柴 俊幸

越谷市立病院 関根 貢氏による演題名「128DAS-CT における高速撮影が画質に与える影響について」の座長を務めさせていただいた。本演題は以前学術大会にて発表を行ったものであるが、支部勉強会のために内容を改編していただき基礎的な検討や今後の応用について分かりやすく発表いただいた。

今回発表いただいた装置は SIEMENS 社製 Definition Edge であり特徴は演題名にもある 128DAS を持つことと、管球回転速度が最速 0.28sec/rot. でありかつ Pitch Factor 1.7 まで設定可能となっている。しかし、新装置の稼働であるとともに高速撮影による空間分解能やノイズ特性への影響も懸念されるため検討が行われた。

今回の報告された検討内容は catphan ファントム低コントラスト部における NPS、CNR、円形度の測定と自作ワイヤーファントムを用いた MTF であった。結果は従来の CT 装置と同様の傾向を見せ、view 数の低下や High Pitch Factor により画質の低下が見られた他、本装置特有の動作である管球回転速度により変化する 2 種の関数 (B30f、B30s) によって特性が 2 極化された。この差は実臨床における現在の診断領域においてはさほど影響のないものと考えられるが、より高速、高分解の撮影が可能になった場合ではその影響を考慮する必要性が懸念される。また撮影速度が上がるにつれ管電流不足が懸念されるため被ばく線量と画質を考慮したパラメータは診療放射線技師側で設定する必要がある。

CT 装置の発展に伴い撮影を行うことに苦渋することはほぼなくなったが、裏を返せば誰でも撮影出来るようになってしまったとも言える。装置の更新があったとしても以前と画質が合わなければメーカーの対応によって済んでしまうことが多い。このような現状の中で本検討のような基礎検討の重要性は高いと考える。現場で業務を行ってれば当然臨床での撮影が多くなるため物理特性に対して興味、関心は向きづらい。しかしながら物理特性は実は少し勉強すればとっつきやすい分野であり、理解が深まると検査への興味も高まるものであることを知っていただきたい。まだ経験の少ない診療放射線技師でも手を出しやすい分野であるため、装置更新の機会や研究発表への第一歩として物理特性評価を行っていただきたい。

## 第三支部



第三支部理事 渡部 進一

酷暑の候、皆様にはますますご壮健のこととお慶び申し上げます。

さて第三支部勉強会がウエスタ川越で行われます。今回は参加の会員方々には色々なご意見が聞ければと思っています。参加人数も予想がつかない状態ですので改善などの余地があれば直していかうと考えていますので宜しくお願いします。また、企画や勉強会などのご要望がありましたらメールにてお問い合わせ下さい。  
※原稿入稿時（6月上旬）には勉強会は終了していません。

### (1) 第三支部 第1回勉強会

【日時】 平成27年6月19日 金曜日 19時より

【会場】 ウエスタ川越 市民活動・生涯学習施設 2F 会議室1

【内容】 メーカー講演

- 「MRI撮影における各種撮影シーケンスの技術解説」  
(E11バージョンソフトウェアの最新機能紹介)

シーメンス・ジャパン株式会社 イメージング&セラピー事業本部  
MRビジネスマネージメント部 石川 啓介氏

- 「知っておきたい社会人のメールマナー講座」

埼玉医科大学総合医療センター 半澤 一輝氏

- 「超急性期の脳梗塞治療におけるCT画像の見方・考え方」

埼玉医科大学総合医療センター 栗原 良樹氏

### (2) 第二・三支部合同 納涼会のお知らせ

日時：平成27年7月18日（土） 19:00～21:30

会場：ベニーノ チェッロ（西武本川越ペ 3F）

埼玉県川越市新富町2-7-6

※ 参加締め切りは7月5日まで

### (3) 平成27年度 第29回 川越市健康まつり途中経過

毎年行われている川越市健康まつりには、第三地区役員が参加しており、本年度は川越市保健センターからウエスタ川越に変更の予定です。昨年度は『あなたのための医用画像』も約500名の来場者がありました。今年は参加してみたい会員を募集したいと思いますので宜しくお願いします。

開催日：平成27年11月1日（日）10:00～14:00 予定

尚、前日の10月30日（土）は準備があります。

問い合わせメール

第三支部理事 渡部 進一 MAIL: sw902ch@saitama-med.ac.jp

## 第四支部

### 第18回 秩父市保健センターまつり 参加報告

第四支部 横田 文克

平成 27 年 6 月 7 日（日）秩父市保健センターにおいて「第 18 回 秩父市保健センターまつり」が行われ、第 4 支部では今年も参加してまいりました。

当日は初夏にふさわしい澄み渡る青空のもと、お天気に恵まれての絶好のイベント開催となりました。会場内には健康相談や体力測定、歯科検診や栄養指導など健康にまつわる催しのほか、屋外では秩父屋台ばやしの演奏やバザーが行われるなど、会場は所狭しと多くの来場者で賑わいを見せていました。

第 4 支部では「パネル展示」「骨密度測定」「放射線相談」「コニカミノルタ ワークステーション展示」「スーパーボールすくい」を企画、市民の皆さんと和気あいあいと触れ合う時間をいただきました。

骨密度測定は毎年好評をいただき、行列を作るほど多くの方に体験いただきました。

パネル展示やワークステーションの説明に耳を傾けていただける方や放射線被ばくに関する質問をされる方も少なくなく、昨今の放射線への関心の高さを感じられました。

最終的に骨密度測定には 350 人、スーパーボールすくいには 200 人、医療画像展には 50 人ほどの方々がお越しくございました。

また来年も参加して診療放射線技師や技師会の活動について多くの方に興味を持ってもらえるように大いに盛り上げていきたいと思っております。

実行委員の皆さん、ご協力頂いたメーカーの皆さん大変お疲れ様でした。



開会式風景



骨密度測定



パネル展示



ワークステーション展示



スーパーボールすくい



ブースの光景



秩父市保健センターまつり 実行委員

会員名	施設名	会員名	施設名
齋藤 幸夫	深谷赤十字病院	山中 隆二	秩父病院
清水 浩和	熊谷総合病院	近藤 和彦	秩父病院
新井 偉生	東松山市立市民病院	新井 紀美子	秩父病院
大野 渉	羽生総合病院	関根 茂夫	小鹿野中央病院
高井 太一	小川赤十字病院	玉川 敏	秩父市立病院
横田 文克	秩父市立病院	勅使河原真由美	秩父臨床医学研究所

協力

コニカミノルタヘルスケア (株) 松谷様・相川様

## 平成 27 年度 第 10 回深谷市福祉健康まつり 開催案内

第四支部 齋藤 幸夫

毎年恒例となっております深谷市福祉健康まつりが本年も開催されます。  
市民の方々に福祉と健康の意識を高めていただけるように企画しておりますので、近隣の方、技師会の活動に興味ある方はぜひお立ち寄りください。

1. 日時 平成 27 年 10 月 25 日（日）午前 10 時～午後 3 時  
（福祉健康まつりは 24～25 日ですが、第 4 支部の参加は 25 日のみ）
2. 会場 深谷市総合体育館とその周辺
3. 主催 深谷市福祉健康部福祉政策福祉課
4. 公益社団法人 埼玉県診療放射線技師会のイベント内容  
放射線医療画像パネル展示・骨密度測定・スーパーボール釣り等

実行委員として参加して頂ける会員の方はお近くの第四支部役員までお声掛けください。  
会員皆さまのご協力をお願い致します。



昨年度実行委員の皆さま

## 第五支部

### 第五支部

#### 情報交換会

場所は春日部市民活動センター〔ふれあいキューブ〕

7月23日 19:00～(予定)

8月27日 19:00～(予定)

詳しくは SART の HP 等でご案内いたします。

(気軽にご来場していただいてご意見などお伺いできれば幸いです)

皆様とのお話ができるような企画を考えております。

テーマなど皆様のご意見をお待ちしています。

ご参加ご協力をお願いいたします。



五支部理事 矢崎 (i-yazaki@sart.jp)



情報交換会以外でもご意見ご提案があれば気軽にご連絡ください

地区の活動にご協力いただける方からのご連絡お待ちしております。

下記でもご案内をしています。

<http://sart-daigoshibu.jimdo.com/>

## 第六支部

埼玉県診療放射線技師会第六支部

1. 巻頭言 仙波 亮
2. 平成 27 年度 第 1 回定期講習会報告

## 巻頭言

## 10年目を迎えて

指扇病院 仙波 亮

第六支部広報を担当させていただいております、指扇病院の仙波と申します。今回、巻頭言を書かせていただく事になりました。僭越ではありますが私の考えをお話しさせていただきます。

私が診療放射線技師になり、10年が経とうとしております。この10年の間に仕事と私生活共に様々な変化がありました。私生活では独身生活から現在の育児生活への変化、仕事では基礎技術の習得という業務から応用技術の習得及び後輩技師への教育という業務内容の変化がありました。共に新しいことへのチャレンジであり、共通点である『育てる』ということの日々考えながら生活を送っております。共に信頼関係を築くことが人を育てる上で重要となりますが、信頼関係を築く過程で私が必要であると思うことがあります。それが『情』です。子供を育てる上では『愛情』が必要であり後輩を育てる上では『人情』が必要であると思っております。そこで今回は人情について考えてみようと思っております。

人情という言葉の意味は『人間が本来持っている優しい心・他人への思いやりや情け』とあります。人に優しくすることだけが人情と受け取ってしまいがちですが、人情味のある人間とは優しさだけではないように感じます。相手に優しく思いやるという行為はただ優しくするというのではなく、相手をよく観察し理解し相手を気遣うことであると思っております。良い面・悪い面をみる観察、話し合いや日常会話による理解、相手への感謝や相手が良い方向へ向かうための助言といった気遣いが重要であると思っております。

この人情ですが私自身、人情味のある人間ではありませんでした。教育と言う言葉にとらわれ悪い部分を見つけようとし、相手の良さを探そうとしていませんでした。またコミュニケーションを取り相手を理解しようとしていませんでした。飴と鞭という言葉がありますが、私は鞭しか与えていなかったのかもしれない。こうした状況下で信頼関係を築くことは難しく、相手に不信感を抱かせてしまう形となり、結果的に後輩を育てるという責務を全うできずにいました。そのような中、自分が教育される立場であった過去に何を感じ何を思ったかを思い起こし『人情』が大切なのではないかという考えにたどり着きました。後輩が毎日行っている雑用は当たり前のように当たり前ではないのかもしれない。私が家族と過ごす時間は後輩のプライベートな時間または家族と過ごす時間の犠牲によって成り立っているのかもしれない。間違った考え方かもしれませんが、感謝の気持ちを持つことが人情味のある人間につながるのではないかと思います。また感謝の気持ちは相手にかける優しさや気遣いに変化し、良好な信頼関係の構築や教育につながるのではないかと思います。

10年目という立場からの考えでしたが、入職から退職まで互いを思いやるという気持ちは必要だと思います。他人との距離を感じている方がいましたら、是非視野を広げ相手を観察してみたいかがででしょうか。何か思いやりにつながる発見があるかもしれません。

## 第1回定期講習会報告

大宮中央総合病院 蓮見浩之

埼玉県放射線技師会第六支部の平成27年度第1回目となる定期講習会が、去る平成27年5月14日に指扇病院にて開催された。参加人数は45名と賑わいを見せる中で、一般撮影というテーマもあってか、若手技師の姿が多かったように感じた。

まず始めにSIEMENS社よりCTの最新情報について2015国際医用画像総合展(ITEM)でのトピックを中心にご講演頂いた。CTラインナップの最上位機種であるSOMATOM Forceの製品紹介から、Twin Beam Dual Energyの開発について、更には新たな金属アーチファクト低減技術のiMARの紹介まで、要点を明確にして講演をされたので、SIEMENS社製ユーザーのみならず、他社製ユーザーにとっても内容の掴みやすい講演ではなかったかと思う。

続けて一般撮影のポイントとどういこと丸山記念総合病院 高嶋豊氏より、頬骨撮影法についてご講演頂いた。頬骨の撮影を必要とする患者さんの多くは外傷の患者さんであり、特に頬骨軸位撮影は外傷の患者さんに有用であるが、頸部屈曲体位で撮影していた為にポジショニングがつかなく、頸椎損傷や意識のない患者さんでは危険な場合もしばしばある。そこで、従来の『頸部屈曲体位』を改め『頸部伸展体位』で撮影することで、患者さんの負担や危険を軽減しながら、技師間での写真の質のバラつきを少なくして、安定した画像提供につながったとの報告があった。

次に上尾中央総合病院 仲西一真氏より、教科書に載っていない膝関節撮影法についてご講演頂いた。膝関節の撮影法は多岐に渡るが、その中でも膝関節正面(立位)撮影は、荷重時の状態の膝関節の状態の評価に非常に有用で、mm単位の計測をしているので正確なポジショニングが求められているとのことだった。さらに側面撮影においては、教科書的な撮影法の『大腿骨の内側顆と外側顆を揃える』というものは臨床では苦悩する点を踏まえて、『同部の背面が重なることを目指す』という教科書には載っていない撮影法を、言葉だけでは掴みにくいところをX線写真や3D画像等を交えながら、客観的にも理解しやすく解説をされた。

最後に埼玉県立小児医療センター 北井亜里沙氏より、小児一般撮影についてご講演頂いた。小児の撮影の機会がもっとも多いのが一般撮影であることは周知の事と思う。その一般撮影において特に患児を相手にするので、成人患者相手の場合とは気を配る観点が違う事を中心に講演されていた。患児の心理的な側面を考慮して、検査室の壁紙や補助具を興味を引くような工夫や、技師や介助者の着衣等には恐怖心を与えないような工夫をしているとの事だった。小児の撮影において、恐怖心をもたれる前に撮影を行うことが重要である為、患児の視線に立ち、優しい検査をスピーディーに行うことを改めて考えさせられる講演であった。

末尾になりますが、この度ご講演いただきました演者の方々に、深く感謝いたします。